

## 次年度への引継事項

【準備に関する事項】	
事項1	NEXT5を取り扱うということでSDGsからのテーマ選定となりましたが、班によってはテーマを決めるのに時間を要しました。
対応1	広い枠から班でテーマを決めるのも良いですが、予めテーマの選択肢を用意し、そこから選ばせる方式でも良いかと思えます。
事項2	ONE IMPACTセミナーの内容を基本として新入会員に議案構築を行っていただきましたが、指導する側の会員拡大委員会メンバーがONE IMPACTセミナーを理解できていなかったため、理事を経験し議案を書いたことがあるメンバーでも指導ができず、結果として常任理事 浅野 龍昇 君に指導を依存することになりました。
対応2	準備が始まる前に、担当委員会で勉強会を開くなどして、指導する側の訓練を行う必要があると考えます。
事項3	議案構築のサポートを常任理事以上や卒業生委員長を中心に依頼しましたが、新入会員側の議案構築の基礎をONE IMPACTセミナーとしていたため、サポーターからの意見がこれまで教わった内容と違って混乱するなどの意見が新入会員から出ました。
対応3	サポートを依頼する際に、指導する側にONE IMPACTセミナーの資料を提示するなど、指導の一貫性を担保する必要があります。
事項4	新入会員たちがかなりの熱量を持って準備に励んでくれたことは非常に良いことですが、熱量を持って余して「ここまで準備させるなら実際に事業をやらせて欲しい」という意見を述べる新入会員も居ました。
対応4	内容に併せて、次年度に同じような内容を担当する委員長予定者に繋ぐなどの対応を取りましたが、可能であれば簡単な事業だけでも実施できれば良いと考えました。
事項5	新入会員によってディスカッション等のレベルに差が出てくるのは仕方ないことかと思えますが、やはり議案構築についていけないメンバーも居ました。
対応5	成果発表に向けて議案構築を構築することも重要ですが、参加すること自体が楽しいと思うような雰囲気作りができる班のコミュニケーションの場も作ると良いかと思えます。
事項6	本番10日前に理事長へのプレゼンリハーサルを行いました。そこでの意見や指摘等が多くでて大幅な修正も発生しました。
対応6	理事長へのプレゼンリハーサル前に一度は担当委員会にてリハーサルを行った方が良いと思えました。
事項7	議案構築やPPT作成のために新入会員にPCを持参させましたが、大半がMacユーザーであり、議案ファイルを作成すると互換性バグが発生したほか、PPTを新入会員同士でやり取りすることが難しいという事態が発生しました。
対応7	Googleスプレッドで作成、共有してWindowsユーザーのPCに取り込むという方法で解決しましたが、理事会を含めてWindowsを前提としたシステムは再考した方が良いかと思えます。

【本番に関する事項】

事項 1	正会員認証式、成果発表への新入会員の出席 100%を目指していましたが、3名の欠席者を出してしまいました。そんな中でも、1名は飲食業のため金曜日開催の事業には出席できなかったという事情もありましたが、班のメンバーとの連携で音声出演は実現することができました。
対応 1	2021年度はWEB開催で新入会員30名中30名の出席で100%、実地開催であった2019年度は35名中32名出席(92%)で今回と似た結果となっており、音声出演の件も踏まえると、ハイブリッド開催にすれば全員が出席できたのかもしれないということも考えられます。もちろん、現地に出席いただくことが重要ですが、会員の事情に寄りそうということも必要なのではないかと考えます。
事項 2	新入会員の集合時間をリハーサルの関係から早い時間の集合予定にしておりましたが、結局例会開始ギリギリまで揃いませんでした。
対応 2	各自仕事の都合等もありますが、案内・周知の仕方を検討した方が良いと思いました。
事項 3	発表の際にピンマイクを使いたいとの要望が新入会員からあり、急遽手配しました。
対応 3	追加費用等は発生しませんでした。会場と打ち合わせる段階で新入会員と発表のイメージをすり合わせておく必要があると考えました。
事項 4	2021年度に引き続き、2022年度も新入会員の成果発表を行いました。その説明をする際に前年度の動画を見せた方が新入会員もイメージが湧きやすいかと考えます。
対応 4	2022年度は動画記録を取っていませんので、2023年度以降実施する場合は動画で記録を残しておくが良いかと思えます。
事項 5	リカレント教育成果発表で予定よりも時間が15分オーバーしてしまいました。
対応 5	発表者は熱が入ると時間の感覚がわからなくなってしまうがちです。発表者から所要時間の経過が確認できる仕組みを作っておく必要があります。
事項 6	正会員115名中、出席者66名で出席率57%と、正会員の出席率の低さが目立ちました。
対応 6	金曜日の開催であったことや、10月は宮崎神宮大祭の準備や次年度の準備も本格化し宮崎青年会議所としての行事も多くなりますが、新入会員がどれだけ熱意を持って準備をしていたか知る身としては非常に悔やまれます。新入会員の準備風景が伝わるようにするほか、各委員会に任せきりにせず担当委員会から個別に呼び掛けるなどの工夫が必要だと感じました。
事項 7	ステージ側からだと会員それぞれの様子が見渡せませんが、堂々とPCを広げて次年度の準備をしている会員が複数名おり、次年度常任理事予定者が注意しても従わない会員すら居ましたし、常任理事 浅野 龍昇 君が趣旨説明の中で前列に詰めさせて止めさせようとする場面もありました。また、恐らく喫煙だと思いますが発表中に数名で退出してまた戻ってくるなどの様子も散見されました。
対応 7	ステージ側、つまり新入会員からは全てが見えているわけであり、それが普通であると新入会員が誤解してしまう危険性があります。聴く側の姿勢、つまり現役会員が今一度襟を正す必要があるように感じました。
事項 8	この事業に限った話ではありませんが、2022年度はアンケート回収率が低くなっています。
対応 8	メインアワー時にスクリーンに映すだけではなくLINE等を使って呼び掛けるほか、所属委員会を明記させ追跡するなどの工夫が必要になるかと思えます。